


 国土交通省中部地方整備局
清水港湾事務所
 御前崎港事務所/下田港事務所/田子の浦港事務所
 静岡市清水区日の出町7番2号
 TEL. 054-352-4146(代表)
<http://www.shimizu.pa.cbr.mlit.go.jp>

みなとしみず

～お知らせ～

- ・しずおか建設まつり 10月28日(土)開催 場所：清水マリナーパーク

御前崎港で「清龍丸」油回収訓練と一般公開を行いました

清水港湾事務所と御前崎港客船誘致協議会の主催により、8月25日(金)、しゅんせつ兼油回収船「清龍丸」が油回収訓練と一般公開のため、御前崎港に初入港しました。

清龍丸(全長104m、総トン数約4800トン)は通常、名古屋港で海底の土砂を掘って、航路の整備を行います。タンカーなどが事故を起こし、海へ大量の油が流出した場合には海洋汚染を最小限にするため、速やかに流出現場に向かい油回収を行います。また東日本大震災や熊本地震では、緊急支援物資の輸送や被災者



<御前崎市長(左3)と清龍丸船員の記念撮影>

への入浴支援などで活躍しました。

今回の訓練は、津波によって陸地の油貯蔵タンクが破損し、港内に油が流出したという想定で行われ、浮いている油を回収装置に誘導するためのジェット水流を作動させ、海水ごと油回収器にとりこんでいる様子が披露されました。

また県の防災ヘリコプター「オレンジアロー」による清龍丸のヘリコプターデッキへの離着船訓練も行われ、清龍丸に積んだ支援物資を空輸するために災害時の連携や手順などの確認も行われました。見学に訪れた地元の方々からは「このような船があるのは知らなかった。」「安心できる。」といった感想を頂きました。

26日(土)にはデッキや操舵室など船内の一般公開が行われ、井林辰憲衆議院議員をはじめ約700名の見学者が来場されました。見学者には乗組員から操船の仕方や緊急時の活動についての説明が行われました。当日は御前崎海上保安署所属巡視船「ふじ」の一般公開やミニチュア波消しブロックの製作体験なども同時開催されました。2日間通じて約1,100名の来場者で御前崎港が賑わいました。



<8/25 油回収訓練の様子>



<ヘリコプター離着船訓練の様子>



<8/26 一般公開の様子>



<ミニチュア波消しブロックの製作の様子>



<井林議員(右3)の見学の様子>

清水港で「夏休み親子見学会」開催！

～ 港湾技術を活用した海辺の環境創造プロジェクト ～

8月18日（金）清水マリンパークにて「夏休み親子見学会」を開催しました。今年は、清水港湾事務所の業務艇「まさき」による港内見学のほか、「港湾技術を活用した海辺の環境創造プロジェクト」協力団体による港湾技術の体験コーナーを設けました。

「まさき」に乗船した親子は、ガントリークレーンの荷役作業を間近に見たり、興津ふ頭に停泊していた地球深部探査船「ちきゅう」に歓声を上げたりと、普段はなかなか見られない海上からの港の風景を楽しみました。

ミニ消波ブロックの製作体験では、アミノ酸を混ぜたコンクリートが藻類の成長にもたらす効果の説明を交えながら、コンクリートを練った型に流したりする作業が進められました。作業中は、親子仲良く協力する姿もみられました。今回製作したミニ消波ブロックは、養生後、清水マリンパークの人工海浜に沈めて様子を観察する予定です。

また、液状化の仕組みや防波堤の整備効果が学べる模型実験、測量に活用されているドローンの撮影映像、環境共生型ブロックのサンプル展示を行いました。一日を通して、マリンパークが親子で楽しめる賑わいの場となりました。

午後にはヒラメの稚魚放流を開催し、清水港から元気に泳いでいく稚魚を多くの子どもたちが見送りました。

ご来場頂きました約200人の方には、清水港や港湾技術を身近に感じて頂けたことと思います。

開催にあたっては、静岡県（港湾企画課・清水港管理局）、静岡市清水港振興課、海のみらい静岡友の会、日建工学(株)、(株)不動テトラ、鈴与建設(株)、(株)古川組のご協力ならびに、清水漁業協同組合のご後援を賜り、誠にありがとうございました。



<ミニ消波ブロック製作体験の様子>



<ドローンの飛行を見学する来場者>



<環境共生型ブロック等展示の様子>



<ヒラメの稚魚放流の様子>

災害時における港湾施設の利用調整に係る訓練を実施

7月に、港湾法の一部が改正され、「非常災害時において、港湾管理者からの要請があり、かつ、地域の実情等を勘案して必要があると認めるときは、国が港湾施設の利用調整等（バース調整等）の管理業務を行うことができる」こととなりました。

大規模災害時において、円滑な被災地支援を行うためには、自衛隊や海上保安庁等の政府機関等の輸送船による支援物資、支援部隊及び資機材等を受け入れるための拠点の確保が必要であり、そのためには岸壁利用者との調整が不可欠となります。

清水港湾事務所では清水港が被災したことを想定し、9月6日（水）に、岸壁の利用状況の把握や調整及び国土交通本省、地方整備局、リエゾン等の役割の確認を行うなど、国土交通大臣が港湾施設を管理するために必要となる一連の手続きや手順を確認しながら訓練を行いました。



<訓練の様子>

日の出ふ頭において大型客船の受入準備をしています

7月26日(水)、清水港は国土交通大臣から「国際旅客船拠点形成港湾」に指定されました。この国際旅客船拠点形成港湾は、クルーズ船社による旅客施設等に対する投資と、国や港湾管理者による受入環境の整備を組み合わせることにより、短期間で効果的な国際クルーズ拠点の形成を図るために定められたものです。旅客施設等に投資を行うクルーズ船社には、岸壁の優先的な使用が認められます。

この状況を踏まえ、清水港湾事務所では現在クルーズ船の受入環境整備として、日の出ふ頭4・5号岸壁の改良工事を行っています。具体的には今後増加が見込まれる大型クルーズ船が係留できるよう、係船柱(船をロープで繋ぐための柱)の大型化(70t型→200t型)と、防舷材の改良(形状を縦型へ改良)を順次行っています。この改良が終わると、受入時の安全性と利便性が向上し、世界最大級(20万t超)の客船もより安全に寄港することができるようになります。

日の出岸壁の整備は、中部地方整備局の秋の「旬な現場」の対象となっています。一般の方の見学も受け入れておりますので、お気軽にお問合せ下さい。(原則10名以上の団体、平日のみ)



<海上からみた日の出岸壁の防舷材の配置>

秋の「旬な現場」(中部地方整備局HP):

http://www.cbr.mlit.go.jp/local_info/sougou/contents/shisetsu/construction/genba.htm

お問合せ先: 清水港湾事務所 企画調整課 054-352-4148

「ヒアリ」定着防止!! 緊急対策の実施

~許しません、ヒアリ定着~

5月に、国内で初めて特定外来生物「ヒアリ」が確認されて以降、全国各地で次々と確認され、清水港においても8月21日(月)に発見されました。

清水港湾事務所では、7月25日(火)から、アリの生息環境となりやすい草の生えた舗装の隙間を埋めるなどの緊急対策を行いました。

さらに、環境省をはじめとした国、県、市及びターミナル運営等に関わる民間企業においても、調査のための捕獲粘着トラップの設置、殺虫餌の設置及び啓発活動などを行い、「ヒアリ」定着防止に向けて、官民一体となって全力で取り組んでいます。

8月31日(木)には、静岡市で開催された「日中韓生物多様性政策対話」に出席された中国、韓国の関係者の方々や、望月義夫衆議院議員も同席され、緊急対策の様子を視察されました。



<緊急対策の様子 施工: 鈴与建設(株)>



<捕獲された「ヒアリ」を熱心に見る望月議員>

また、10月2日(月)には、「ヒアリ」が発見されたコンテナターミナル周辺の地域住民の方々を対象に、ふじのくに地球環境史ミュージアム岸本年郎准教授による、ご自身の体験も含めた「ヒアリ」の説明や、県や市による「ヒアリ」対策、当所が行っている緊急対策の説明を行いました。



<粘着トラップ 設置の様子>



<地元説明会の様子>

シリーズ「モノから見える清水港」⑧(全10回)

船筆笥(ふなだんす) — からくり金庫 —

当館の第3展示室の和船コーナーには約1/10の木製模型が並んでいます。その中に、和船で使われた船筆笥も紹介しています。船筆笥は江戸時代の船往来手形、印鑑、貨幣、帳面などを船内で保管する金庫で、樺材を組み合わせ、華麗な金具で飾られていました。形や大きさには何種類もあり、懸硯(かけすずり)は手提げ金庫、帳箱(ちょうばこ)は船の備え付け金庫と言えるものでしょう。千石船による航海は暴風雨に見舞われることもある危険と隣り合わせの航海でした。船が難破する時には重要物品が入った船筆笥は海中へと投げられました。海へと投げられた船筆笥は海面を浮かび続け、海岸へ打ち上げられます。実は船筆笥は、海中投棄→回収→船主に返還されることを考慮して作られていました。

さて、それでは船筆笥の細部を見ていきましょう。まず、上部には持つことができるように取っ手がついています。外は堅い樺で作られ、内部は柔らかで湿気を調節する桐が使われています。また、手の込んだ鉄の装飾金具で覆われていることが一番の特徴です。実は、この金具は全面に施されていますが、特に正面の前扉の部分が最も多く、豪華に作られています。これは、見栄えもありますがこの面が一番重くなるように作られているのです。船筆笥が海中に投げ出されると、狭間のある扉面が下になり、内部の空気は上になり浮力を保ちます。ちょうど、風呂の洗面器を反対にし、空気を入れたまま水中に押し込んだ状態です。そのため、船主は浮輪のように船筆笥につかまることができました。また、鉄の装飾金具は岩礁にぶつかっても壊れないように付けられていました。内部には“からくり”という隠し引き出しがあり、印鑑や書類を隠し入れることができました。そして、船筆笥を開けるには3~7本の鍵が必要でした。一方、当時は難破船の積荷が海岸に打ち上げられた場合には奉行所に届けなければ重罪となりました。船筆笥は奉行所を経て船主に返還される制度が整っていたのです。そのため、今でも難破船の文献記録は各地に残っています。

もう一度、船筆笥を見てみましょう。樺の木目が美しく漆黒の鉄金具で覆われています。現代の眼で見れば贅沢な逸品です。しかし、江戸幕府のお咎めを受ける金や銀、絹、象牙などを使った贅沢品にはあたりませんでした。船筆笥は素材を吟味して、職人の技と知恵を凝縮して作られた特権的な商人だけが持つことができたとても贅沢な工芸品でした。江戸時代の粋(いき)や贅沢はちょっとみただけではわからないところがあったのでしょ



船筆笥(懸硯)



内部のようす

※このシリーズは「モノから見える清水港」について紹介するもので、今回は連載8回目です。

椿原 靖弘(ちんばらやすひろ) 1962年 藤枝市生まれ、フェルケール博物館 学芸部長

海とみなとの相談窓口



全国共通フリーダイヤル

おーいに よくなれみなと

0120-497-370

受付時間: 9時30分~12時、13時~17時(土・日、祝祭日は除く)

☆携帯電話・PHSからもご利用できます☆

- ・海やみなとの利用に関すること
- ・総合的な学習時間に関すること
- ・みなとの構想や計画に関すること
- ・海洋土木技術に関すること
- ・みなとの防災に関すること

その他、海とみなとに関することは何でもお問い合わせください

■本紙に関するお問い合わせ先■

清水港湾事務所 企画調整課

江口・坪倉 Tel 054-352-4148

ご意見ご感想をお寄せ下さい。☘

pa.cbr-shimizukouwan@mlit.go.jp